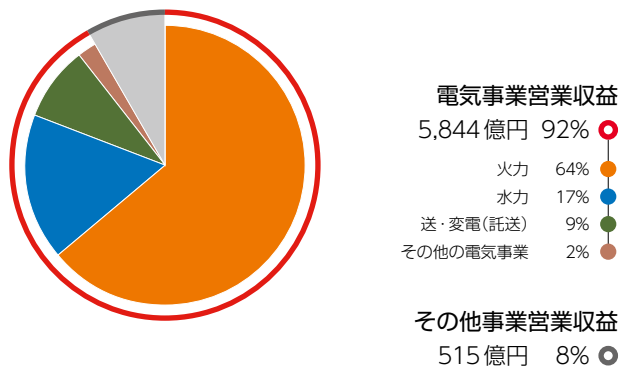


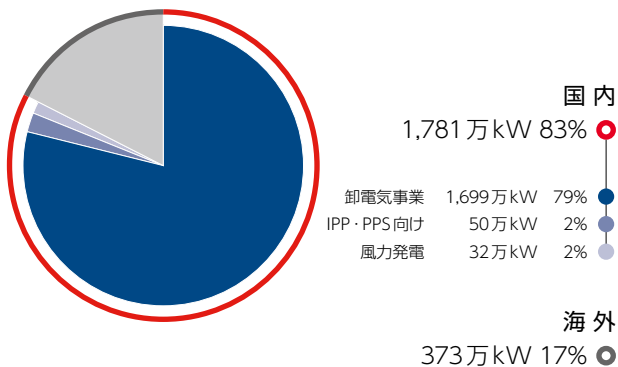
# 日本の電力の安定供給を支える、J-POWERグループの電力事業

J-POWERは、日本全国に所有する発電所を運営し、各地域の電力会社（一般電気事業者）に長期にわたり電気を供給する卸電気事業を主力としています。また、自社で保有する送・変電設備を通じて電力の託送を行うほか、風力発電事業、IPP（独立系発電事業者）事業、PPS（特定規模電気事業者）向け電力卸供給事業などにも取り組んでいます。

連結営業収益(売上高)構成比  
(2011年3月期)



連結発電設備出力構成比(営業運転中)  
(2011年3月末現在)



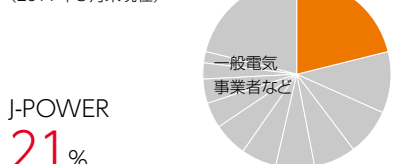
(注) 連結子会社および持分法適用会社の設備を含む。  
合計出力は各プロジェクトの総出力に当社の持分比率を乗じて算出。

## 火力発電

### 石炭火力発電に特化した当社事業の柱

全国7カ所に、合計出力 841 万kW、国内シェア最大の石炭火力発電設備を保有。石炭は、原油やLNG等の化石燃料に比べて海外炭のカロリー当たりのコストが低いことに加え、主に電力需要のベース部分を担う電源として利用されていることから設備利用率が高く、経済的に優れた電源と言えます。環境負荷の低減を目指し、経年化した発電所のリニューアル(設備更新)や高効率発電技術の開発に取り組んでいます。

石炭火力発電設備出力シェア  
(2011年3月末現在)



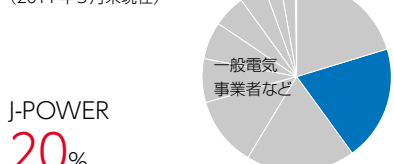
出所：「電源開発の概要」[電力調査統計]  
(資源エネルギー庁)

## 水力発電

### 電力需要のピーク対応に不可欠な電源

全国59カ所に、合計出力 857 万kW、国内シェア第2位の水力発電設備を保有。当社は設立以来、数多くの大規模水力発電所を開発してきました。水力発電はCO<sub>2</sub>を排出しないクリーン電源です。また、電力需要の変動にすばやく対応できる特徴があることから、需要の高まる昼間帯を中心に利用されています。

水力発電設備出力シェア  
(2011年3月末現在)



出所：「電力調査統計」(資源エネルギー庁)

## 送・変電(託送)

### 日本の電力ネットワークを支える基幹インフラ

本州と北海道・四国・九州のそれぞれの地域をつなぐ基幹送電線など総延長約 2,400kmの送電設備と周波数の異なる東西日本を繋ぐ周波数変換所を保有。これらは、日本全体の電力システムを総合的に運用する上で、非常に重要なインフラです。

## その他の電気事業

### 電力自由化や低炭素化社会に対応した発電事業を展開

IPPによる電力卸供給事業として、全国3カ所、合計出力 52 万kWの発電設備、ならびにPPS向け電力卸供給事業として、全国3カ所、合計出力 32 万kWの発電設備を保有。また、全国18カ所で風力発電所を展開し、合計出力 35 万kW、国内シェア第2位の設備を保有しています。いずれも子会社および関連会社を通じて取り組んでいます。